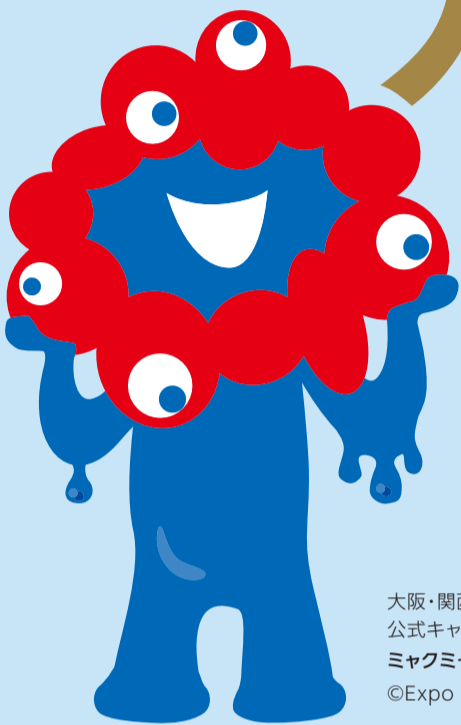


赤十字NEWS 3

Japanese Red Cross Society NEWS

MARCH.2025.#1018

大阪・関西 万博開催 特大号!



大阪・関西万博
公式キャラクター
ミャクミャク
©Expo 2025



日本赤十字社
公式キャラクター
ハートラちゃん



特集1 | パビリオンプロデューサー・小山薫堂さんインタビュー
万博を通して、“いのち”への気づきを

特集2 | 2025年4月いよいよ!
赤十字パビリオンGUIDE BOOK

CONTENTS

TOPICS

阪神・淡路大震災から30年
赤十字職員の奮闘の記録「あの時」私たちは
..... P.9

連載

献血ハートフルストーリー P.9

AREA NEWS

[埼玉] JRCとプロサッカーチームがコラボ
収益の一部を赤十字へ

[香川] 香川から神戸・淡路へ贈る
1.17“希望の灯り”

[高知] 特別支援学校に
雪のプレゼント! /他 P.10-11

万博と赤十字 × WORLD NEWS

過去の万博博覧会における赤十字の参加の歴史
..... P.12

PRESENT!!

パナソニック
コードレス掃除機

プレゼント!
6名様
詳しくは
P.11をCheck! ▶

MC-SB33J-W

SPECIAL FEATURE

万博特号 特集 1

パビリオンプロデューサー・小山薫堂さんインタビュー

万博を通して、“いのち”への気づきを

「いのちをつむぐ」をテーマに、シグネチャーパビリオン「EARTH MART」を手がける小山薫堂さん。

食を介して、命と向き合うきっかけづくりを目指すという今回のパビリオンについて、その思いを伺いました。

こやま くん どう
小山 薫堂さん

1964年熊本県出身。放送作家として『料理の鉄人』など食をテーマにした番組を数多く手がける他、脚本家として映画『おくりびと』で脚光をあびるなど、幅広い分野で活躍。現在は、京都芸術大学副学長、料亭「下鴨茶寮」主人も務める。



©EARTH MART / Expo 2025

左)日本人が一生のうちで食べる卵(約2万8000個)で作られた巨大なシャンデリアは一見の価値あり。その下には同じ数の卵で作られた目玉焼きも展示 右)蜂が一生をかけて集めるはちみつを表した食品サンプル。この展示では、蜂の生涯を描いたムービーも流してメッセージを伝える

目の前の“いのち”に感謝する
「いただきます」の意味

最初に、シグネチャーパビリオンのプロデューサーの依頼をいただいたとき、真っ先に浮かんだのが、「いのちと食」でした。日本人は、食事を始めるあいさつとして「いただきます」を使います。多くの人は、そこに「いのちをいただく」という意味が込められていることを知っていると思いますが、そのことにきちんと向き合う機会はありません。そのきっかけづくりとして企画したのが、「EARTH MART」です。

『EARTH MART』はスーパーマーケットふうの内装ですが、そこで食材を販売するわけではありません。実際のスーパーのお店って、実は命を感じさせない場所なんです。そんなスーパーで買い物を楽しむように中を回っていくと、人間が命を紡ぐためにどれだけの「いのち」をいただいているのかを考えるきっかけとなる。そんな展示を目指しています。

例えば、はちみつ。1匹の蜂が生涯で集める蜜の量は、おおそ4グラム。ティースプーンに少量のせた程度です。それを趣向を凝らして展示することで、普段無意識にヨーグルトやパンケーキにかけて食べている人でも、「いのちをいただく」という意味を考える糸口になるはず。

他には、日本人が一生のうちで食べる量の卵(約2万8000個)で作った巨大なシャンデリアとその数の卵で作られた目玉焼きを展示します。また、海の世界連鎖の例として、10万個のイワシの卵から人間の口に入る成魚はわずか3匹、それまでに他の生物の「いのち」になっていく様子を見せるなど、私たちが他の生命の営みとどうつながっているのかを感じてもらうための仕掛けです。

未来を明るくする25の伝統食と
SDGsな暮らしの象徴・茅葺き屋根

未来の食をより良くするきっかけになればと考え、日本古来の25の食材で「EARTH FOODS」と題した展示も行います。梅干しのように、冷蔵庫がない時代から何十年も保存できるように加工する知恵や、フグの毒を取る技術など、日本の食文化が世界に広まることで、食の未来が変わることもあるはず。これは日本の食を自慢するための展示ではなく、海外からの来場者にも紹介して、「あなたの国にも同じような食材や、食の知恵はありませんか?」と問いかけることで、みんなが一つのテーブルでいるような食を共有しようという

メッセージです。

パビリオンの建築に用いた茅葺き屋根も、未来に伝えたい技術の一つ。水を弾く茅を外側にし、内側にはお米を収穫した後に出る藁を使った屋根。藁は編んで縄やわらじになり、使い終わったら燃やして、その灰を畑に撒く。SDGsという言葉がない時代から、日本では当たり前だった食の循環です。

このように、「食」の細部に向き合うことで、人は謙虚になりますし、自然を敬い、他の生命に感謝するようになるのではないかと考えます。このパビリオンを出た後に、ちょっと優しくなれるような、そんな空間になればと考えています。

与えることだけが支援ではない
東日本大震災の被災地での記憶

映画『おくりびと』や、絵本『いのちのかぞえかた』など、これまでも、「いのち」や「生きること」をテーマにした作品を企画することは度々ありました。その都度、生きるために必要な要素は何かと考えますが、「欲」もその一つではないかと思えます。食欲もそうですし、災害が起こったときに、自分の行動が誰かの喜びになるなら」と支援することも、人間の本能的な欲求のように思えます。

東日本大震災のとき、写真家のハービー・山口さんと被災地を巡りました。避難所は、それぞれのつらい状況を抱えて笑顔を失っている被災者がほとんど。ハービーさんは、被災者になんとか笑顔になってほしくて、一人のおばあちゃんの肩を揉んで

あげながら、話に耳を傾けていました。最後にカメラを向けたとき、ほんの少しですが、その方からほほ笑みがこぼれたんです。「すごくいい写真が撮れたよ!とはしゃいで喜びハービーさんの姿を見て、「私の笑顔で喜んでくれるなんて」と、おばあちゃんにも喜びの表情が。それを見たとき、求められることをしてあげることだけが支援ではなく、相手が「自分は求められている」と感じるような頼り方をするのも支援になるのだと学びました。

人間は生き方を選べる生き物
その尊厳が奪われない社会に

人は動物と違って、本来生き方を選べる生き物です。自分で幸せに生きようと努力し、選択していくことが使命なはずなのに、今世界中では、さまざまな状況でそれができない人がたくさんいます。そんな人々が、尊厳を取り戻すためにあらゆるサ



小山さんとイラストレーター、セルジュ・ブロックさんの日仏合作の絵本『いのちのかぞえかた』(千倉書房刊)。人間の生活にまつわるさまざまな数字を、主人公の成長を通して見ていくと、人体の不思議や、生きることの素晴らしさを垣間見ることができ

「赤十字の炊き出しも、昔でいう“石原軍団”の炊き出しのようにブランド化すれば、もっと存在感が増すのでは?」と、小山さんならではの提案も



about EXPO 2025

シグネチャーパビリオンについて

大阪・夢洲を舞台に、2025年4月13日から10月13日までの184日間開催される大阪・関西万博。160以上の国と地域、国際機関が集まるその内容とは?

今回の大阪・関西万博のテーマは「いのち輝く未来社会のデザイン」。小山薫堂さんをはじめとする8人のテーマ事業プロデューサーが、それぞれ「いのち」をテーマにシグネチャーパビリオンを展開する他、海外パビリオン、日本館、ウーマンズパビリオン、民間パビリオン、自治体館など、さまざまな展示が集結する。世界最大級の木造建築となる円形のメイン建築「リング」も話題に。赤十字は、「国際赤十字・赤新月運動館」として出展。世界の人道危機と、そこに立ち向かう人々の姿を半球型のドームシアターで上映する。



小山薫堂さんが手がける「EARTH MART」とは?

小山薫堂さんが手がけるパビリオン「EARTH MART」は、「いのちをつむぐ」がテーマ。スーパーマーケットのような空間で、日本人が育んできた食文化と、テクノロジーによる食の進化を共有し、食を通じて「いのち」を考える構成。国内の気鋭のシェフ5人が日本発の食リスト「EARTH FOODS 25」をテーマにコンセプト料理を発表したり、会期中にオリジナルの梅干し「万博漬け」を漬け、来場者に2050

年にその梅干しと引き換えができる引換券をプレゼントするなど、ユニークな企画が満載。建築は、隈研吾建築都市設計事務所 に依頼。所属する若手建築家が考えた約50のアイデアの中から、小山さんと隈研吾さんが選定し、茅葺き屋根の建築が採用された。また、世界的に活躍するグラフィックデザイナーの八木保さんがアートディレクションを担当。国際的な視点で世界観の形成に貢献する。



全国5つの地域から集められた茅材で作られた茅葺き屋根の建物が圧巻!

SPECIAL FEATURE

万博特大号 特集 2

2025年4月いよいよ! 大阪・関西万博 開幕!!

4月13日から10月13日の計184日間開催される、2025年日本国際博覧会(略称「大阪・関西万博」)。 「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに、世界が一つの「場」に集うこの万博の魅力を赤十字NEWS視点で紹介します。



提供:2025年日本国際博覧会協会 ※画像はイメージです。実際の会場とは配置・建物形状が一部異なる場合がございます。また本画像の無断転載・複製は一切お断りします。

「いのち」をテーマに 世界の叡智が集う場所

万博会場全体の広さは約155ha(東京ドーム約33個分)。高さ12~20m、幅30mの世界最大級の木造建築物である大屋根リングが会場全体を取り巻き、その上を歩いて会場や大阪湾を見渡すことができます。独創的な65のパビリオン、大小さまざまな約8000の催事が展開される他、iPS細胞から作製された本物の心臓のように拍動する「iPS心臓」や、世界最大級の「火星の石」、人間そっくりの「アンドロイド」(人型ロボット)など、見どころが盛りだくさんです。

全65のパビリオンからPick up! 万博会場には、158の国と地域、9つの国際機関による多彩なパビリオンが展開されます。(2025年2月18日現在)

スイスパビリオン

未来への解決策とシナリオを探求する対話型プログラムを実施



© FDFA, Presence Switzerland

テーマは「人間拡張」「生命」「地球」。スイスと日本の技術が結晶したエコロジカルな特殊素材によって形成された5つの球体型パビリオン。最上階の球の中ではスイスの料理やワインなどが楽しめるカフェも。

国連パビリオン

「世界のタウンホール」国連が、SDGsや多国間協力の重要性を発信



提供:国連

赤十字館の隣のパビリオン。「人類は団結したとき最も強くなる」をテーマに、国連の知られざる取り組みや、持続可能な未来のビジョンを、体験型展示を通して紹介。限定商品の販売や記念品の配布、写真撮影コーナーなども。

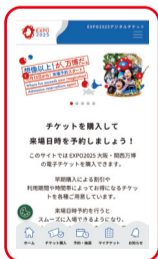
チケット購入・パビリオン予約ガイド

1 まずは、専用サイトで万博IDを登録

万博ID登録サイト

※万博IDとは?
大阪・関西万博で提供されているさまざまなサービスにログインする際に必要な共通のIDです

2 チケット購入・予約サイトにアクセス



3 来場日時の予約やパビリオン・イベントの観覧予約

来場日時予約

パビリオンなど観覧予約

※必ず来場日時の予約が必要です
※パビリオン事前予約・当日登録を導入しない、並んで入場できるパビリオンもあります。

予約・抽選ガイド



予約日時に会場へ!

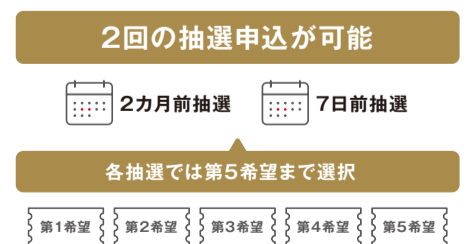


人気パビリオンの事前抽選チャンスは2回!



※パビリオンやイベントの予約枠に空き枠がある場合は、来場日の3日前から前日の朝9時まで、空き枠先着に申し込むことができます。※来場日の当日にパビリオンやイベントの予約枠に空き枠がある場合は、会場に入場後、先着で当日登録をすることができます。※上記予約方法は2025年2月18日時点のものです。

各抽選の希望は第5希望まで!



詳しくは...

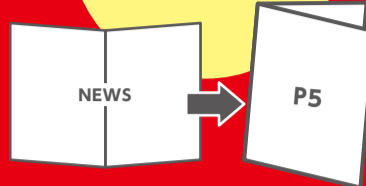
入場チケット購入ガイド



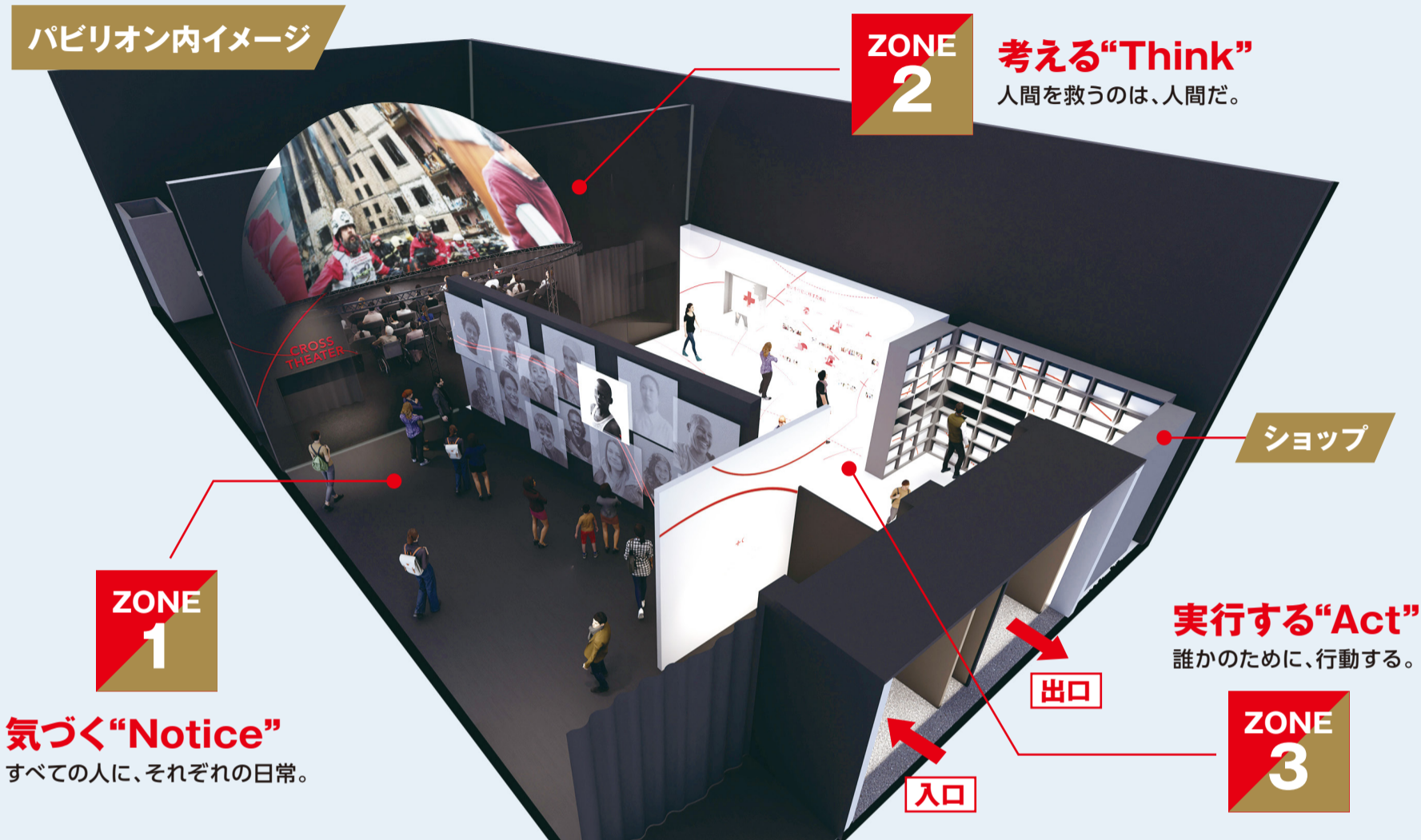
※家族、友人などグループ(最大14人)は、まとめて抽選・予約、当日登録が可能です。

赤十字パビリオンGUIDE BOOK

取りはずして
会場に
持っていきける!



人間を救うのは、人間だ。(赤十字パビリオンのスローガン)



※「気づき」「考え」「実行する」という3つのZONE構成は、日本赤十字社の「青少年赤十字(JRC)」における態度目標に基づいています。

ZONE 1 気づく“Notice”

パビリオンコンセプト



赤十字運動への共感とともに 人道アクションのきっかけを生む

日赤が事務局を務めるパビリオンの正式名称は「国際赤十字・赤新月運動館」。1862年に赤十字の創始者であるアンリー・デュナンが唱えた、傷ついた人々を敵味方の区別なく救う赤十字思想を受け継ぎ、赤十字国際委員会(ICRC)、各国の赤十字社と赤新月社、その連合体である国際赤十字・赤新月社連盟(IFRC)の3つの機関の理念を体現する場所です。パビリオンでは、「わたしの“できる”は、誰かのためになる。」をコンセプトに、多くの来場者に赤十字運動への理解や共感を高めてもらい、人道アクションにつながるきっかけになることを願いながら、赤十字の世界観を体感できる場となっています。



ゾーン1では世界中の人々の何気ない日常が映し出されます。風土や文化に違いはあれど、それぞれの大切な日常が、静かに浮かび上がります

今、当たり前で過ごしている日常の価値に気づく

「国際赤十字・赤新月運動館」は300㎡(25m×12m)の空間を3つのゾーン(ZONE1・2・3)に分け、約30分かけて赤十字の世界観を体感していただけます。その入口であるZONE1では、『世界の人々の何気ない日常を垣間見る映像インスタレーション』が広がります。私たちの身の回りにある日常の光景と、そこで生きる人々の姿とともに、平和な日々の価値を改めて感じてもらえるよ

うな空間です。紛争や災害などで平穏な日常を奪われることの理不尽さと、それに苦しんでいる人の存在を自分ゴトとして感じていただきたい。そして、その現実に向き合う勇気と、苦しんでいる人を救うことの大切さに気づき、誰かのために自分ができることがあると感じ、一歩踏み出すきっかけになることを願っています。



SPECIAL FEATURE

万博特号 特集 2

目前に広がる『世界の人道危機』 ドームシアターでの没入体験

人々の平穏な日常を奪う紛争や災害。突然起きる危機に際して、立ち上がり行動を起こす人がいます。あなたの「救いたい」思いを、ここで見つけてください。



大阪赤十字病院
川瀬佐知子さん

看護師としてガザの病院で医療支援中に紛争が勃発。激しい攻撃が続く中、毎晩「もう目覚めないかもしれない」と覚悟して眠りにつく。帰国後、ガザに残って24時間体制で医療活動を続ける現地の赤十字スタッフを思い、ガザの状況を日本の人々に伝える。

石巻赤十字病院
千葉梨沙さん

石巻赤十字看護専門学校に在籍時に、東日本大震災が発生(当時19歳)。自ら被災しながら仲間の看護学生らと共に24時間体制で体の不自由な方たちのケアにあたる。自分のせいで大切な祖母が津波で亡くなったと自責の念も起きる中、支え合う人の温かさに触れ、心が救われた。

石巻赤十字病院
藤田彩加さん

石巻赤十字看護専門学校に在籍中に東日本大震災で被災(当時19歳)。避難先で「何かしなければ、一度は助かった命が失われてしまう」と、弱っている被災者を必死に救護し、自分にできることを模索した経験が、看護師としての今につながっている。

日本赤十字社香川県支部
大林武彦さん

学生時代に阪神・淡路大震災が発生。被災地の友人に会うために神戸入りし、惨状を目の当たりに。無力感にさいなまれ、「人を助ける仕事に就きたい」と考え、内定をもらっていた会社を辞退して日赤に入社。赤十字防災セミナーや救急法講習など救うための活動続ける。



華々しい万博会場の中の マインドリセットの場に

日本赤十字社
広報室 大阪・関西万博準備室
担当:コンテンツ制作・会場計画など
さいとう あきひこ
齊藤 彰彦さん

私は、日赤入社前、「愛・地球博」で赤十字パビリオンを体験し、そのときの感動や観客の熱気の記憶があります。今回自分がコンテンツを作る側となり、試行錯誤を繰り返しました。パビリオンで展示されるものは、膨大な赤十字の記録から蒸留された、ほんのわずかな1滴です。まず、ゾーン1では、さまざまな人種、国籍、宗教を持つ人たちの日常が映し出されます。実は、その多くは赤十字の活動地で撮影されたもの。つまり、どんなに平穏に見えても、何らかの支援を必要としている地の日常から切り取られたものです。そして、ゾーン2に入ると、その平穏な日常が打ち砕かれます。パビリオンが目指したのは、単なる事業紹介ではなく、「人を救いたい」という心で行動する人を増やすこと。華やかでお祭りのような万博会場の中で、ふと静かに自分の心を見つめ直すきっかけになればと思っています。



「人を救いたい」思いに気づき、 行動するきっかけに

日本赤十字社
広報室 大阪・関西万博準備室
担当:パビリオンスタッフの配置・管理など
つちばし あきこ
土橋 明子さん

赤十字パビリオンを運営するスタッフは全て、全国から集まった日赤職員と赤十字ボランティア。支部職員や看護師、血液センターの職員や、救急法の指導員や防災ボランティアなど、日頃から「人を救う」アクションを起こしている人々です。ちなみに、運営の中核となる地元・大阪のボランティアは全員、心肺蘇生・AEDの講習を受けて「救う」準備を整えています。そう聞くと、なんだか志が高すぎて遠い存在だと思われるかもしれませんが、そんなことはありません。普通の人々が、「誰かの力になりたい」と行動しているのです。ゾーン3では、赤十字の活動紹介コーナーがありますので、興味を持ったらスタッフに声をかけてください。こんなに普通の人々が赤十字の活動に参加しているんだ、そんな発見と共に、ご自身がゾーン1・2で気づき、考えたその先のアクションを見つめる手がかりがつかめるかもしれません。



知ることによって変わる。 世界中の仲間の願いがここに

日本赤十字社
広報室 大阪・関西万博準備室
担当:国際赤十字、海外ステークホルダーとの調整など
すがい ひとし
菅井 智さん

「人間を救うのは、人間だ。」これが赤十字パビリオンのスローガンです。先進技術や産業を発信するパビリオンが多い中で、赤十字の掲げるテーマは、他に類を見ません。1867年のパリ万博で、佐野常民(日赤の創設者)が赤十字と出会う衝撃を受け、「赤十字のような組織があつてこそ本物の文明開化」と謳い日赤を創設するに至ったように、この万博が、より多くの人の「赤十字との出会いの場」となれば、と考えています。昨年スイスで開催された赤十字の国際会議の場で、今回のパビリオンをプレゼンしましたが、赤十字がヨーロッパの一部の国から世界中に知られるきっかけになったのが万博だったという事実を知らない方も多く、私も驚きました。それを知った彼らは一様に、「赤十字のことを知ってもらいたい」と、万博への期待を口にしました。知ることによって赤十字の思いとつながり、知ることによって行動しやすくなる。そんな変化のきっかけとなることを願っています。

ZONE 2 考える“Think”



世界で災害や紛争による人道危機に対して支援活動を行う赤十字の姿、日赤のスタッフの生の声を、臨場感と没入感のある半球形のスクリーンで体験

世界の人道危機をより近くで「感じる」 半球型ドームシアター

ドームシアターに足を踏み入ると、来場者を包み込むように広がるスクリーンと、臨場感のある映像と音によって、目の前の世界に入り込んだかのような没入体験が待っています。ここでは、世界の紛争、災害などによる人道危機と、そこに立ち向かい、立ち上がる人々の姿を描くヒューマンストーリーの中に入りこめます。危機の現場で活動する赤十字の視点で描かれる映像の中には、パレスチナ自治区のガザで医療支援事業に携わった川瀬佐知子さん、東日本大震災で被災しながら支援を続けた藤田彩加さんと千葉梨沙さん、阪神・淡路大震災での経験から日赤への入社を決意した大林武彦さんの4人のメッセージも織り込まれ、赤十字の使命と、人間のチカラを感じるZONEとなっています。

ZONE 3 実行する“Act”



パビリオンで感じた思いや、自分に何ができるといったメッセージを投稿し発信できる大型ウォール。メッセージは後からWEBでも閲覧が可能

自分の思いが世界とつながる メッセージウォール

「気づき」と「考える」体験から、来場者が抱いた思いを表現できるZONE3では、投稿したメッセージが投影される大型スクリーンを設置。一人でも多くの人に、世界の人道危機を自分ごととして捉える機会を生み、その思いのバトンをつないでいきます。

メッセージウォール | 投稿方法



会場に設置されたタブレットにあなたのメッセージを書く
メッセージに指を置いて思いを含め、目の前のウォールに向けて送り出す
ウォールにあなたのメッセージが現れ、思いが広がる

多様な人道支援活動を知る活動紹介ウォール



幅8mのウォールに国内外での赤十字の幅広い支援活動を紹介。「こんな活動もあるんだ」という新たな気づきとともに、赤十字の活動を身近に感じられる場となります。

詳しくはコチラ



万博×日赤グッズ **今しか買えない! 会場限定グッズもあり!** SHOP Information

<p>パビリオングッズ (計6アイテム)</p> <p>My奢セット</p>	<p>ハートラちゃんの他、キティ、ミャクミャクコラボグッズも! (計6アイテム)</p> <p>リングノート</p>	<p>ムーミングッズ</p> <p>マグカップなど</p>
--	--	-------------------------------

SPECIAL FEATURE

万博特号 特集 2

会場MAP

パビリオン・MAP



*1 2024/11/29 時点

■ 独自パビリオン…52カ国 ■ 協会用意の単独館…16カ国*1、3国際機関*1 ■ 協会用意の共同館…89カ国*1、5国際機関*1 ■ 民間パビリオン・協会利用建物等共同館区画…52カ国*1

※会場マップはイメージです。実際の会場とは配置・建物形状が一部異なる場合があります

会場MAPのマークの意味

- ……トイレ
- ……トイレ(大屋根リング上)
- ◆ ……飲食店
- ♡ ……休憩所
- ▲ ……救護施設

赤十字パビリオン周辺の休憩・食事スポットなどの情報はコチラ



赤十字NEWS
オンライン版

会場内のレスキュー情報

万博会場には合計150台のAEDが設置されています。心停止から一刻も早く使用できるよう、1台の活用範囲を直径150mとして会場屋外に76台、人が多く集まる催事施設を中心とした屋内に74台。設置場所やAED利用のためのアプリについては赤十字NEWSオンライン版からご確認ください。同サイトでは、熱中症対応、災害発生時の避難の流れについてもご案内しています。

万博会場の救護所・AEDの情報はコチラ



赤十字NEWS
オンライン版

5/4
|
5/10

“赤十字ウィーク”展示紹介 (会場:ギャラリー WEST)

万博会場各所では、連日さまざまな無料イベントが開催されます。催事場「ギャラリー WEST」では5月4日から10日まで**国際赤十字・赤新月運動**イベントとして、「未来の野外診療所」をテーマにした体験・実演コーナーを設置。**日赤の災害救護研究所***2がホストとなり、世界最高レベルの放射冷却性能で外気より低温にする新素材を使用した診療 TENT や、外部からの補給なしで手洗い水が恒

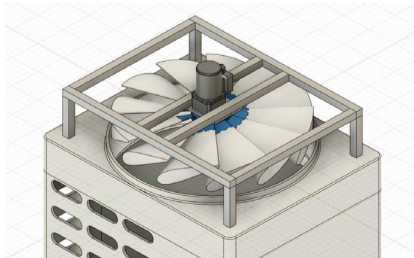
*2 日本赤十字看護大学附属 災害救護研究所

バーチャル災害訓練「災育ランド」体験
(協力:大阪赤十字病院)



※画像はイメージです

小型風力発電
(協力:スターリングエンジン・ジャパン株式会社)



ビル用エアコンの室外機の上に設置し、その排気を利用して電気を発電

ギネス認定の癒しロボ「パロ」体験
(協力:産業技術総合研究所)



リハビリメイク実演
(協力: REIKO KAZKI)



イベント情報は万博公式WEBサイト「Visitors(ビジターズ)」でチェック



イベントカレンダーも公開中



TOPICS

TOPICS

阪神・淡路大震災から30年
赤十字職員の奮闘の記録「あの時」私たちは

1階が完全に潰れてしまった職員の自宅

いかなる状況でも輸血用血液の供給を止めない—これが赤十字血液センター職員の使命です。

阪神・淡路大震災から30年を迎え、兵庫県赤十字血液センターでは、「赤十字職員」として震災を経験した者よりも、震災後に誕生した職員の割合が上回っています。あのとき、被災した血液センター職員たちはどう立ち向かったのか。その記憶の継承をし、次なる災害に備えるため、**血液センターは特設WEBページを開設し、記録写真や職員へのインタビューを掲載**しました。また、これらの記事は、献血ルームや一部の献血バス、SNSにも掲示しています。

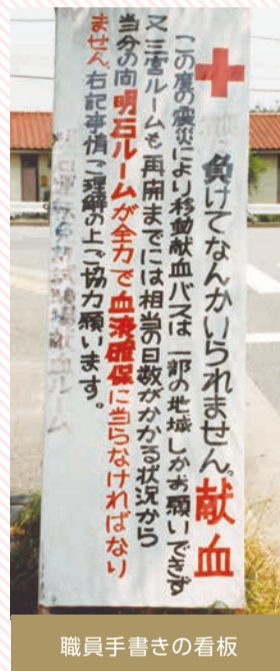
職員の証言には、
「自宅で就寝中に地震発生。道路の亀裂、建物の崩壊を目にしながら車で会社(血液センター)に向かう。朝10時に家を出て到着は夜11時過ぎ。そこから1週間は帰宅できなかった」

「地震が起きたとき、当直勤務で仮眠中だった。突然の揺れに驚き、何が起きたか全く分からない状況に。血小板の振とう機が倒れ、検査試薬が割れて異臭が漂っていた」

など、当時の壮絶な被災状況が語られています。一方で、**大変な状況にあっても、献血や血液搬送をはじめとする業務を維持するために奮闘した職員の姿も浮かび上がってきます。**ぜひ、ご一読ください。



兵庫県赤十字血液センターの
WEBサイトはコチラ!



職員手書きの看板



倒壊した血小板の振とう機



さまざまな機器が破損した血液センター内

献血ハートフルストーリー vol.15

このコーナーでは、血液事業に携わる日赤職員、ボランティアさん、献血協力者などの人たちが、日々どのような思いで血液事業に取り組んでいるのかを紹介していきます。

「献血がある世界」そのやさしさに触れて



今月のひと

profile

宮崎県赤十字血液センター
献血ルーム「カーリーノ」
職員
あらたけ
荒武 ちはるさん

私は、宮崎県の献血ルームで、献血の受け付けやイベントの企画、学校での献血セミナー、SNSを使った広報などを行っています。献血血液の確保のため、協力企業や団体との交渉(渉外)も担当しており、献血を通して多くの人の「献血への思い」に触れます。ある企業の献血を担当されている方から、ご家族が闘病中に輸血を受けられ、最期の

ときも、輸血によってお別れの時間をゆっくり取ることができた、と感謝の言葉をいただいたことがありました。また、とある学校を訪問した際、教職員の方から「**輸血に助けられ、自分はもう献血できないけれど、恩返しをしたい**」と申し出ていただき、**イベント実施につながった**こともありました。

実は日赤に入職するまで、特に献血を意識したことはありませんでした。日赤を希望したのは、大学時代に海外の紛争について学び、紛争地での赤十字の活動を知っていたからです。国際活動や人道支援の団体と思って入職、そして配属されたのが献血などを扱う血液事業。そこで初めて、人が人を支える献血のあり方や、ボランティアなど、さまざまな形で多くの人が献血に携わっていることを知りました。

今、力を入れているのは、献血ルームに来るまでのハードルを下げること。学校の献血セミナーでは、漠然と献血は怖いと感じている学生に、怖さを払

拭する情報を伝え、「60分で助かる命がある」と呼びかけます。また、献血ルーム「カーリーノ」では、昨年8月にInstagramを開設。インスタを見てボランティアへの申し込みもあり、SNSの反応に驚きました。今後も、**SNSや高校生とのコラボなど、献血ルームのイメージを変えられるように取り組んでいきたい**です。

献血ルーム「カーリーノ」
Instagramはこちら

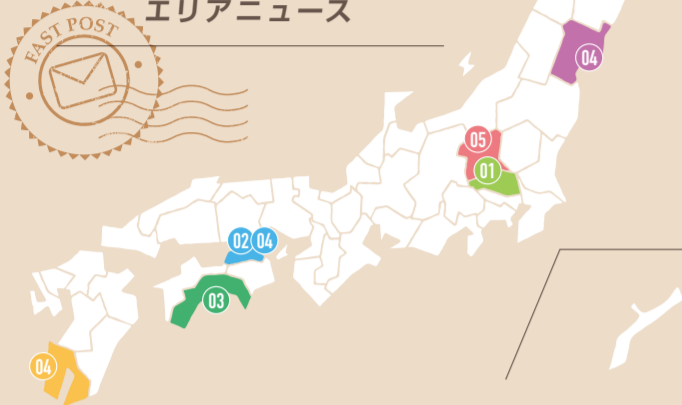


KENKETSU_MIYAZAKI

献血
セミナー中

Area News

エリアニュース



全国各地、あなたの生活のすぐそばで日本赤十字社の活動は行われています。

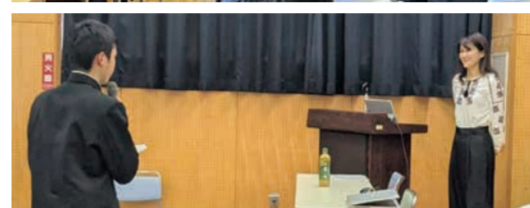
Area News



JRCとプロサッカーチームがコラボ 収益の一部を赤十字へ



青少年赤十字(JRC)加盟校のさいたま市立美園中学校では、「安全・安心で世の中をハッピーにする『もの』を作り、学校・地域を盛り上げよう!」という学習テーマのもと、同校のマスコットキャラクター・サギボワをデザインした商品の開発・販売に取り組みました。中でも3年1組は、地元プロサッカークラブ・浦和レッズダイヤモンズとコラボし、ネックウォーマーを試合会場販売。見事に完売となり、その利益を寄付するため、1月15日にクラスの代表2人が日赤埼玉支部を訪れました。生徒たちは寄付の使い道を映像で見た後、救護倉庫も見学。職員の説明に熱心に耳を傾けました。



ウクライナ派遣の理学療法士が登壇 「もし自分が徴兵されたら？」

日赤群馬県支部では、1月23日、武蔵野赤十字病院(東京都)の理学療法士、平野亨子さんを招いて、県立太田高校で国際理解講演を実施しました。日赤の国際医療支援の最前線で活躍する平野さんは、昨年8月から11月にかけて、戦時下のウクライナで活動しました。ときには空襲警報が鳴り、シェルターでの待機を余儀なくされる中、患者たちがリハビリに取り組みするためのプログラム作成などを主導。講演の中で平野さんは、「ウクライナでは医学的に根拠のあるリハビリの普及が不十分で、一からシステムを立ち上げるには努力が必

要でしたが、患者さんだけではなく、一般の住民にまでリハビリの方法を指導することで彼らを手助けすることができました」と語りました。会に参加したのは、同校1年生約170人。生徒たちは事前に平野さんから「自分が徴兵された場合、その直前の3日間を誰と過ごすか考える」といった宿題が出され、講演後、生徒たちからは「現地の状況やどのように支援が行われているかがリアルに伝わった」「他国の現状を知ることで日本の平和や安全の大切さを改めて実感した」などの感想が聞かれました。



香川から神戸・淡路へ贈る 1.17 “希望の灯り”



阪神・淡路大震災から30年目の節目となる今年、日赤香川県支部では、1月16、17日に高松市で「1.17 香川からKOBÉ・AWAJIへ“希望の灯り”を〜温故備震〜 故きを温め 明日に備える」を開催しました。地域の

方々から外国人観光客までが参加し、「私たちは忘れない」「今備えれば守れる命がある」など、思いがつけられた約400個のコップを並べて、「1.17」の文字を灯しました。震災時、瀬戸内海を挟んで兵庫県と向き合う香川からも多くの赤十字ボランティアが支援に駆けつけました。今回は、その活動や避難生活の様子も展示され、当時を知る来場者は「本当に大変な状況でした。これをきっかけに地震の怖さや備えの重要性を知ってほしい」と語りました。



特別支援学校に 雪のプレゼント!



1月16日、高知若草特別支援学校に、日本3大カルストの1つであり「日本のスイス」とも称される四国カルストから、トラックいっぱいの雪が届けられました。これは、日赤高知県支部・東津野赤十字奉仕団が、高原ふれあいの家(天狗荘)の協力で行う恒例企画で、今年で28回目を迎えます。温暖な高知県で、日ごろ雪に親しむことの少ない子どもたちも、冷たい雪に触れ、ソリを滑らせて、雪遊びを楽しみました。

常任理事会開催報告

令和7年1月23日、令和6年度第9回の常任理事会が開催されました。今回の常任理事会では、令和6年能登半島地震における救護活動の検証について報告しました。

第105回代議員会開催公告

令和7年3月19日(水)、午後2時30分から新館が関ビル「全社協・瀬尾ホール」(東京都千代田区霞が関3丁目3番2号)において第105回代議員会を開催し、下記の事項を付議いたします。 令和7年3月1日

記

第1号議案 役員を選出について
第2号議案 令和7年度事業計画について
第3号議案 令和7年度収支予算について

「ACTION! 防災・減災」プロジェクト一命のために今うごころ みんなで学ぼう! 「いのちを守る適切な避難行動」

3月恒例の「ACTION! 防災・減災」プロジェクト。今回は「いのちを守る適切な避難行動」がテーマです。WEB動画では、上白石萌音さんが赤十字防災セミナーのプログラム「家具安全対策ゲーム(KAG)」に基づいて、セットになっている家具・家電の危険箇所を確認。日赤職員から「お皿は落ちるだけでなく揺れで飛ぶこともある」と聞き「怖い!」と驚く場面も。説明を聞きながら大きな家具・家電に転倒防止策を施すことで、けがを防ぎ、在宅避難も一つの避難方法であることを学びます。また、特設サイト「SAVE365 Magazine」では、「避難の盲点や油断」を分かりやすく紹介する「避難あるある凶鑑」を掲載。雑誌ananとタイアップした「教えて! 防災バッグの中身」の記事では、小さな子どもがいる場合の避難や「持ちだし」と「備蓄」の違いなど、読むだけで実践的な知識が深まる情報が充実。ぜひ特設サイトをご覧ください。



上白石さんが家の安全対策を学ぶWEB動画

PRESENT!! “日赤トリビアクイズ” に答えてプレゼントを当てよう!

Quiz

Q. 日赤の救護班は何人で構成されている?

ア. 医師、看護師の計2人が基本
イ. 医師、看護部長、看護師2人の計4人が基本
ウ. 医師、看護部長、看護師2人、事務職員2人の計6人が基本

ヒントは右の二次元コードから▶▶▶



日赤WEBサイトでは、「怖いほど本気! 日赤救護班の研修に密着!」を公開中。クイズのヒントも載っているよ!

プレゼント

パナソニック コードレス掃除機

本体の質量が1.3kgの軽量モデル。軽さ・操作性とパワーの両方を重視する人におすすめ。操作性にこだわった本体デザインは、人間工学に基づき採用されたハンドルと重心バランスにより手元負担を軽減し、スムーズな操作性を実現。ダストボックスは取り外しが簡単で、水洗いもできて清潔な状態をキープします。

6名様に当たる!

サイズ(スティック時):
幅220mm×
奥行168mm×
高さ1093mm



プレゼント応募方法

プレゼント希望者は、以下の項目を明記のうえ、郵送・WEBでご応募ください。

①お名前 ②郵便番号・ご住所 ③電話番号 ④年齢 ⑤赤十字NEWS3月号を手にした場所(例/献血ルーム) ⑥クイズの解答 ⑦3月号読者アンケートの回答

※ご応募いただいた個人情報はプレゼントの発送および弊社からののお知らせに利用いたします

⑦3月号読者アンケート質問項目

[A] 日赤の「会員」ですか
ア. 会員(年間2千円以上の寄付を継続している。但し、義援金を除く) イ. 会員ではない

[B] 赤十字について知っている活動はどれですか(※下記選択からA〜ケの文字をご記載ください。複数選択可)
ア. 国内災害救護 イ. 国際活動 ウ. 赤十字病院 エ. 看護師等の教育 オ. 献血(血液事業) カ. 救急法等の講習 キ. 青少年赤十字 ク. 赤十字ボランティア ケ. 社会福祉

[C] 今月号の赤十字NEWSをお読みになって、以前よりも赤十字活動全体についての理解が深まりましたか
ア. とても理解が深まった イ. ある程度理解が深まった ウ. すこし理解が深まった エ. 以前と変わらない

[D] 興味・関心を持った記事・企画はどれですか
ア. 特集①インタビュー イ. 特集②万博ガイド ウ. TOPICS エ. 献血ハートフルストーリー オ. エリアニュース カ. プレゼント キ. ワールドニュース(万博と赤十字)


[E] 赤十字NEWSの適切な大きさは
ア. 今のまま イ. A4サイズ ウ. 小冊子(A5 148×210mm)サイズ

[F] 赤十字NEWSの発行回数は何回がよいですか
ア. 月に1回 イ. 2カ月に1回 ウ. 3カ月に1回 エ. 半年に1回

[G] 赤十字NEWSの記事をスマートフォンやパソコン(オンライン)で読みたいですか、いままでもお読みですか
ア. オンライン イ. どちらかというオンライン ウ. (オンラインと紙の)両方 エ. 紙 オ. どちらかという紙

[H] その他、赤十字NEWSに関するご意見、ご要望(任意)

応募は
こちらから





子どもから大人まで 各地でさまざまな 防災セミナー開催

鹿児島県青年赤十字奉仕団は、12月14日に10~30代を対象とした「防災力レジン赤十字」を開催しました。当日は県内の大学生や短大生が参加し、非常用炊き出し袋を用いた炊飯や、赤十字防災セミナープログラム「ひなんじょたいいけん」、ダンボールベッドや簡易トイレの組み立てなどを体験しました。① 日赤香川県支部では、1月25日に「赤十字防災ボランティア実践研修会」を実施し、54人が参加しました。「家具安全対策ゲーム」「ひなんじょたいいけん」など

のグループワーク、無線での情報伝達、状況に応じた三角巾・ロープの効果的な使い方などを学び、防災ボランティアとして実践的な知見を広げました。② 宮城県の仙台市西多賀赤十字奉仕団は、1月29日に地元の児童館と共催で「楽しく学ぼう! 赤十字防災教室」を開催。小学生約80人が「防災〇×クイズ」などに取り組みました。参加した児童は「地震で家具が倒れないか家族と話したい」など、笑顔で感想を語りました。③



万博と赤十字

vol. 6

過去の万国博覧会*における赤十字の参加の歴史

※5年以上の間隔で開催される登録博

国際赤十字の展示が グランプリの評価を得た 第2回パリ万博

赤十字が初めて万博に出展したのは、1867年の第2回パリ万博。この万博では、フランス赤十字社が中心となり、救急車や担架、義足など戦争負傷者の救護に使われる資機材が数多く展示され、それらと共に出品した国際赤十字の展示は、敵味方の区別なく救護するための画期的な仕組みを示し、万博のグランプリを受賞しました。パリ万博を視察した佐野常民(日赤の創設者)が衝撃を受け、後に日本で赤十字社を立ち上げたことから、万博が赤十字の周知・発展に大きく寄与していることが伺えます。

来場者のほとんどが 赤十字パビリオンを体感した 1992年セビリア万博

「発見の時代」をテーマに開催された1992年のスペイン・セビリア万博では、赤十字は「国際赤十字・赤新月運動」のパビリオンにおいて、赤十字の歴史と、自然災害や世界の紛争に際した赤十字の活動、世界平和促進への貢献などを中心に紹介しました。各国の赤十字社を通して募集された世界78カ国441人のボランティアが、来場者のエスコートや広報

活動などを担当し、日赤からも計13人が参加。赤十字創設以来の人的活動をより広く紹介したパビリオンは話題を呼び、2000万人の来場者のほとんどが来訪したと言われています。“HUMANITY”のロゴがデザインされたTシャツに赤いキュロットをはいて、路上でパフォーマンスするボランティアの姿も話題になりました。

また、2010年の上海万博では、赤十字国際委員会と国際赤十字・赤新月社連盟の後援のもと、現地の赤十字社「中国紅十字会」が国際赤十字・赤新月館を出展。さまざまな人道危機の現場で赤十字が活動する様子を、映像を通して伝えました。このパビリオンの最後には、世界中の赤十字ボランティアの顔写真が飾られた「偉大な壁(Great Wall)」が掲げられ、赤十字とはボランティアによる運動体であることを来場者に印象づけました。

ダイナミックな映像、VR… 時代と共に進化する 赤十字パビリオン

赤十字がこの国際的イベントに参加する目的は、世界における人道的取り組みの中核を担っている運動体として、より多くの人々に赤十字の活動に関心を持ってもらうことです。そのために、近年では最新の技術を駆使したパビリオン作りが行われています。

2021年のドバイ万博では、赤十字国際委員会のブースで、VRヘッドセットによるバーチャル体験が取り入れられました。

没入型シミュレーションのシナリオの一つでは、体験者はある都市で武力攻撃から逃れながら、その途中で負傷した子どもを救出しなければなりません。体験者からは、「現実であれバーチャルであれ、紛争地帯における民間人の苦境について考えたことがなかった」といった感想も聞かれ、人道危機への意識を高めるきっかけとなりました。

愛知県で開催された万博『愛・地球博』の赤十字パビリオンで副館長を務めた井上忠男さんは、万博における赤十字の存在意義を次のように語ります。

「世界の先進技術や文化の豊かさに触れ、明るい未来を志向する万博において、赤十字の存在は異質です。赤十字は、ただその活動を伝えるだけで、つらく厳しい世界の現実を突きつけるからです。しかし、それこそが『本当の世界を知る』ことにつながる。愛・地球博の赤十字パビリオンは熱狂的なリピーターを獲得し、その来館者から、赤十字によって真の万博の姿が見えた、という感想が寄せられました。その言葉は万博における赤十字の存在意義を言い表している、と思います」。



1867年 赤十字が初出展

パリ万国博覧会
開催国: フランス 出展者名: ICRC (赤十字国際委員会)

開催5年前の1862年に、赤十字の生みの親であるアンリー・デュナンが、著書『ソルフェリーノの思い出』の中で、戦時において敵味方なく命を救うことの必要性を訴え、1863年に赤十字国際委員会の前身である5人委員会が発足。翌1864年にジュネーブ条約が調印されて、国際赤十字組織が正式に誕生してから、3年の月日がたった。

1873年

ウィーン万国博覧会
開催国: オーストリア

国際赤十字は諸般の事情で出展できなかったが、戦時救護の展示エリアで欧州各国が外科医療器材や救急車、衛生兵の携帯品、負傷兵の運搬法などを展示。その多くに赤十字マークが付されていたため、赤十字パビリオンが出展されたように見えた。この万博に明治政府から派遣された佐野常民は100人ほどの部下を指揮し膨大な報告書をまとめた。

1970年

大阪万国博覧会
開催国: 日本

大阪万博に赤十字の出展はなかったが大阪赤十字病院から医師や看護師を派遣、会場の診療所内では日赤の救護本部を設置しました。また、開催2年前より通訳奉仕者の養成を開始。特に優秀な150人の通訳奉仕者が派遣され、日赤の力が大いに発揮されました。

1992年

セビリア万国博覧会
開催国: スペイン
出展者名: 赤十字・赤新月パビリオン
[ICRC、IFRC(国際赤十字・赤新月社連盟)、スペイン赤*の共催]

2005年
**愛知万国博覧会
(愛・地球博)**
開催国: 日本
出展者名: 赤十字・赤新月パビリオン
[ICRC、IFRC、日赤の共催]

2000年
ハノーヴァー万国博覧会
開催国: ドイツ
出展者名:
赤十字・赤新月パビリオン [ICRC、IFRC、ドイツ赤の共催]
災害・シェルターにかかる特別展示 [ドイツ赤、バングラ赤*の共催]

1998年
リスボン万国博覧会
開催国: ポルトガル
出展者名: 赤十字・赤新月パビリオン
[ICRC、IFRC、ポルトガル赤*の共催]

2010年

上海万国博覧会
開催国: 中国
出展者名:
赤十字・赤新月パビリオン
[ICRC、IFRC、中国赤*の共催]

2015年
ミラノ万国博覧会
開催国: イタリア
出展者名: イタリア赤十字社
パビリオン

単独出展(当時、イタリア赤は政府機関)。赤十字・赤新月パビリオンとしての出展はなし。

2021年

ドバイ万国博覧会
開催国: アラブ首長国連邦
出展者名: ICRC

*各国の赤十字社を「(国名+)赤」と略称表示。中国の赤十字社の正式名は「中国紅十字会」